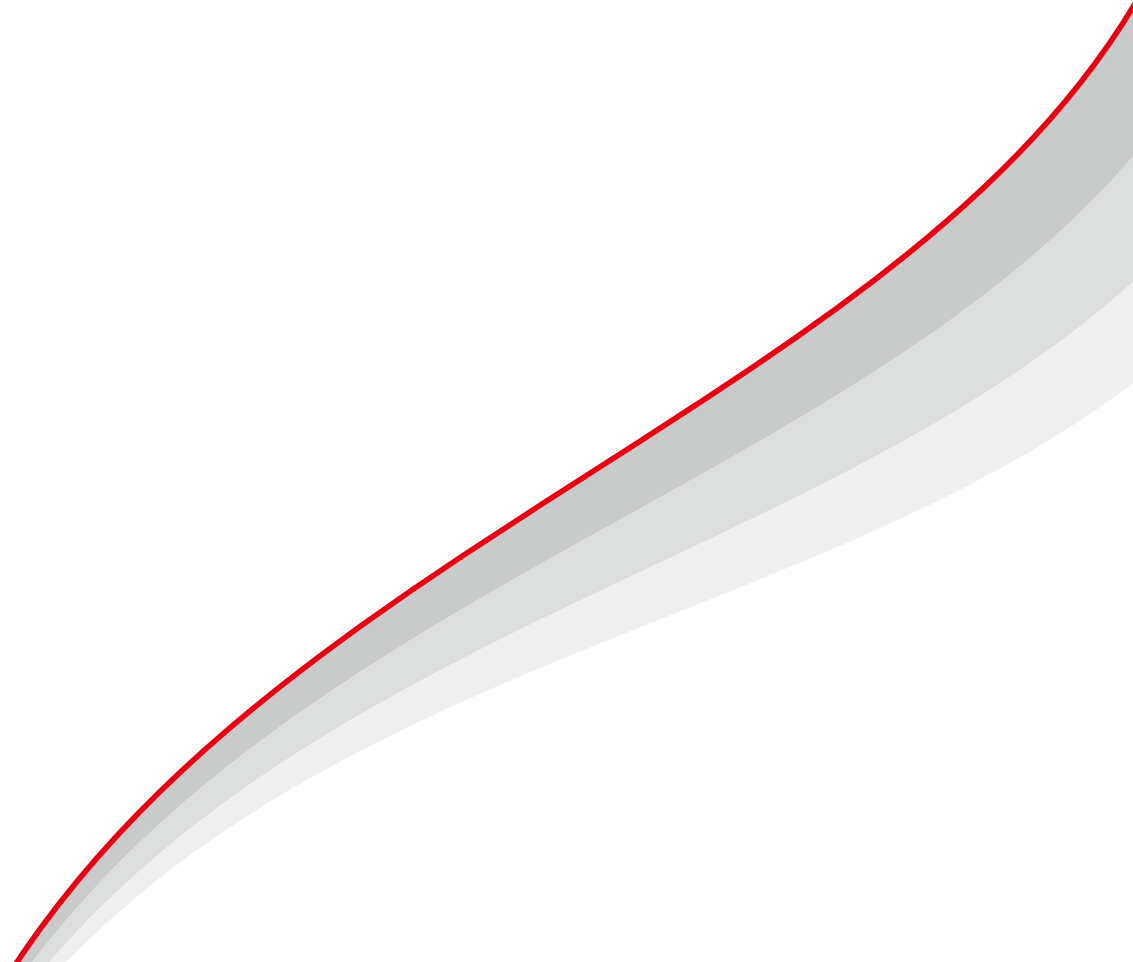


島津グループ° サステナビリティ経営 説明会

2024年10月17日



社外取締役 花井 陳雄



株式会社ペルセウスプロテオミクス 社外取締役
ノイルイミュン・バイオテック株式会社 社外取締役

1976年 4月	協和発酵工業株式会社（現 協和キリン株式会社）入社
2006年 6月	同社執行役員
2009年 4月	同社常務執行役員
2009年 6月	同社取締役
2010年 3月	同社専務執行役員
2012年 3月	同社代表取締役社長
2018年 3月	同社代表取締役会長
2019年 3月	同社取締役会長（2020年3月退任）
2020年 6月	当社取締役（現在に至る）
2021年 3月	株式会社ペルセウスプロテオミクス 社外取締役（現在に至る）
2024年 3月	ノイルイミュン・バイオテック株式会社 社外取締役（現在に至る）

登壇者のご紹介

専務執行役員 稲垣 史則



1982年 4月
2006年 11月
2010年 7月
2011年 4月
2015年 6月

通商産業省入省
経済産業省 通商政策局通商政策課長
経済産業省 大臣官房政策評価審議官
独立行政法人 日本貿易保険 理事
当社入社 常務執行役員

2017年 6月

経営戦略・営業副担当
常務執行役員
地球環境管理担当
経営戦略・営業副担当

2021年 4月

常務執行役員
標準化戦略（Chief Standardization Officer）
環境経営・メディカル規制担当 経営戦略副担当

2023年 4月

専務執行役員
標準化戦略（Chief Standardization Officer）
メディカル規制担当
経営戦略・環境経営（GX）副担当（現在に至る）

本日のスケジュール

- ① サステナビリティ経営の取り組みについて 30分
(稲垣 専務執行役員)
- ② 社外取締役から見たサステナビリティ経営 10分
(花井 社外取締役)
- ③ 質疑応答 20分
(花井 社外取締役、稲垣 専務執行役員)

サステナビリティ経営の取り組みについて

2024年10月17日

株式会社 島津製作所

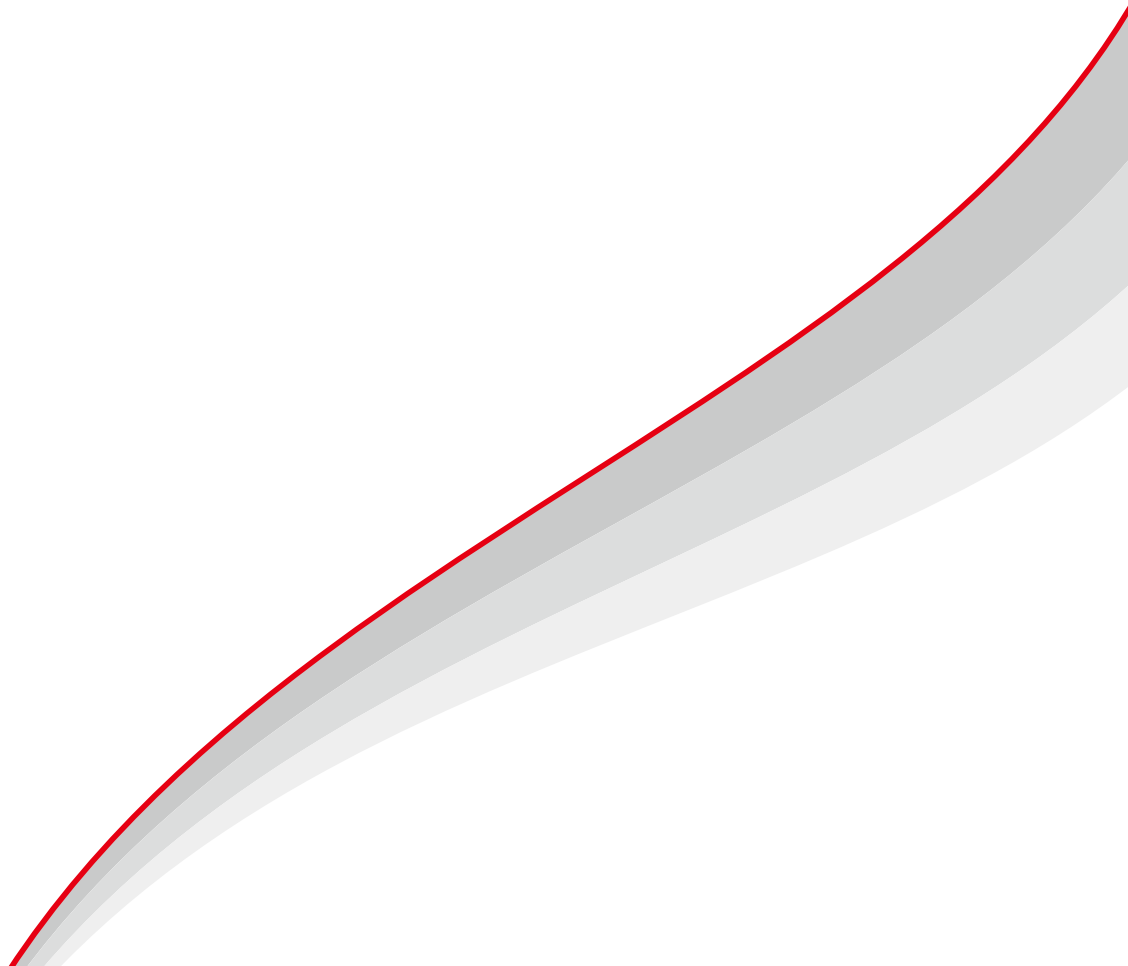
専務執行役員 稲垣 史則

標準化戦略(CSO)担当

メディカル規制担当

経営戦略副担当

環境経営(GX)副担当



本日、お話しすること

1. 島津が目指すサステナビリティ経営

- 1) サステナビリティ経営の全体像
- 2) マテリアリティ
- 3) 島津サステナビリティスコアとKPI見直しの仕組み
- 4) サステナビリティ経営の推進体制
- 5) 外部からの評価

2. 事業を通じた社会課題の解決 ～事業貢献テーマ～

- 1) 人の命と健康への貢献
- 2) 地球の健康への貢献
- 3) 科学技術の進歩・高度化

3. 社会の一員としての責任ある活動 ～経営基盤強化テーマ～

- 1) E：将来に向けた環境経営の取り組み
- 2) S：将来に向けた人的資本への強化、サプライチェーン強化への取り組み
- 3) G：ガバナンスの強化

4. まとめ

1. 島津が目指すサステナビリティ経営

- 1) サステナビリティ経営の全体像
- 2) マテリアリティ
- 3) 島津サステナビリティスコアとKPI見直しの仕組み
- 4) サステナビリティ経営の推進体制
- 5) 外部からの評価

2. 事業を通じた社会課題の解決 ～事業貢献テーマ～

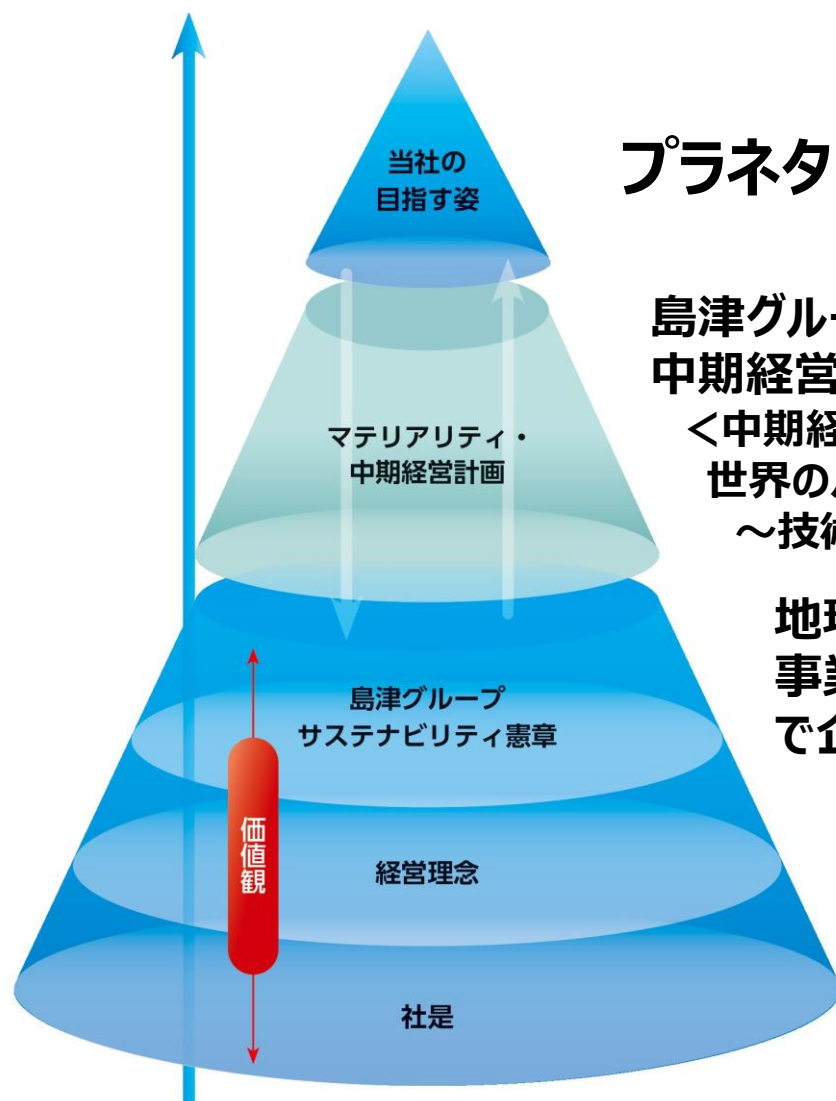
- 1) 人の命と健康への貢献
- 2) 地球の健康への貢献
- 3) 科学技術の進歩・高度化

3. 社会の一員としての責任ある活動 ～経営基盤強化テーマ～

- 1) E：将来に向けた環境経営の取り組み
- 2) S：将来に向けた人的資本への強化、サプライチェーン強化への取り組み
- 3) G：ガバナンスの強化

4. まとめ

1. 島津が目指すサステナビリティ経営 島津の価値観と目指す姿



プラネタリーヘルス（人と地球の健康）の追求

島津グループサステナビリティ憲章に基づき、
中期経営計画を通じて重要な経営課題（マテリアリティ）の解決に取り組む
＜中期経営計画＞

世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ
～技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす～

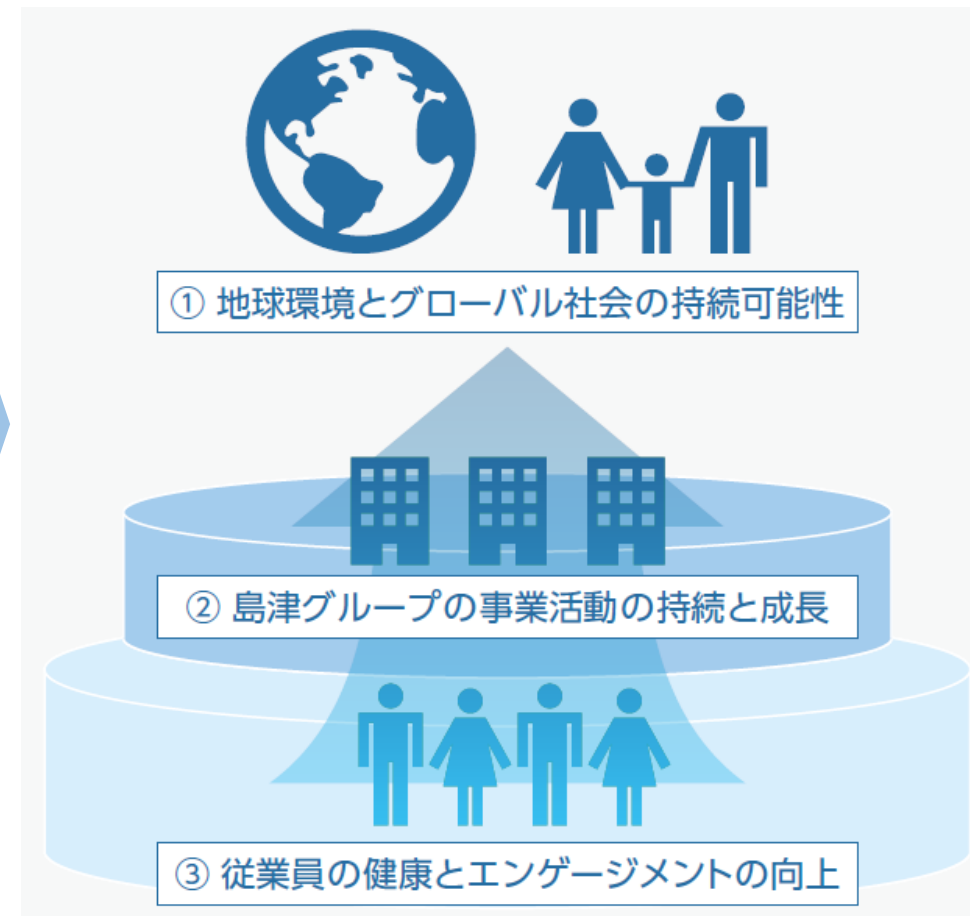
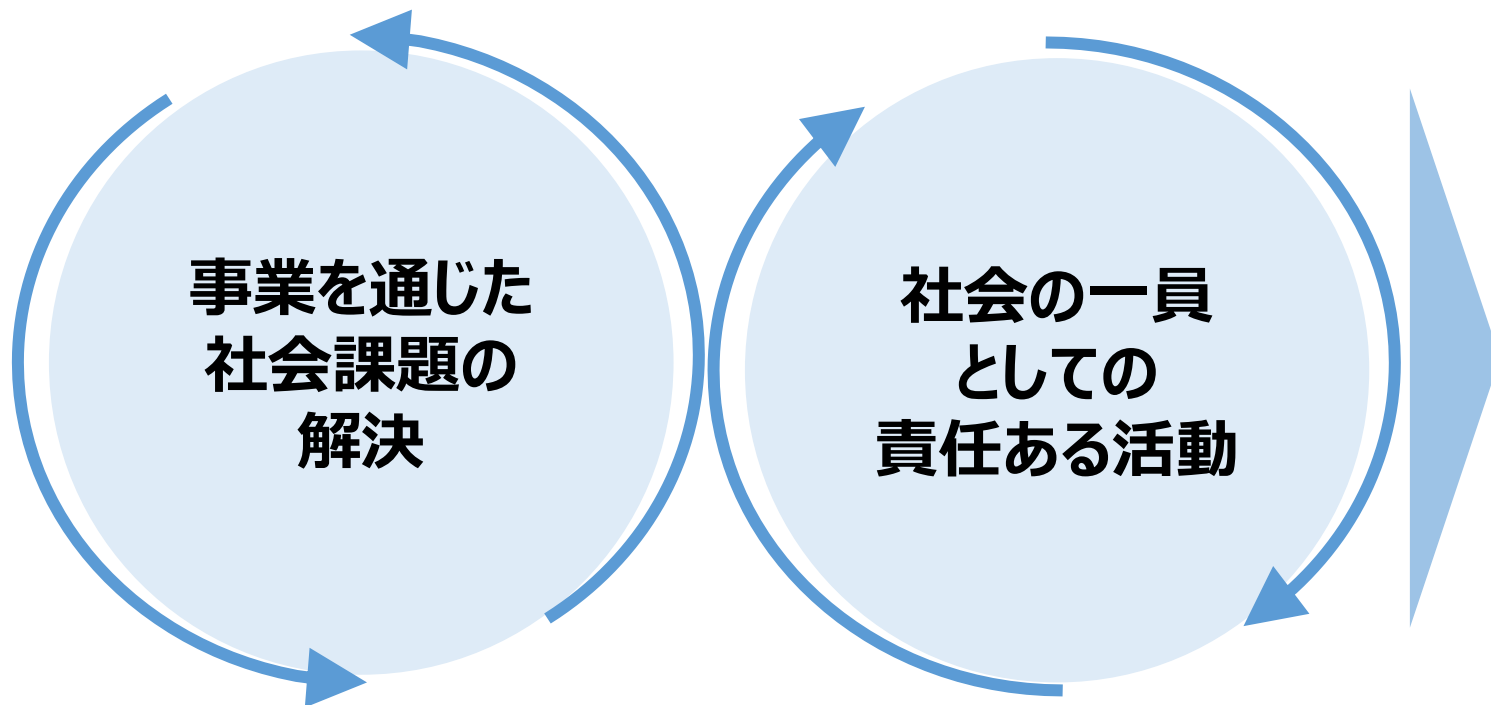
地球・社会・人との調和を図りながら、
事業を通じた社会課題の解決”と”社会の一員としての責任ある活動”の両輪
で企業活動を行い、明るい未来を創造します。

「人と地球の健康」への願いを実現する

科学技術で社会に貢献する

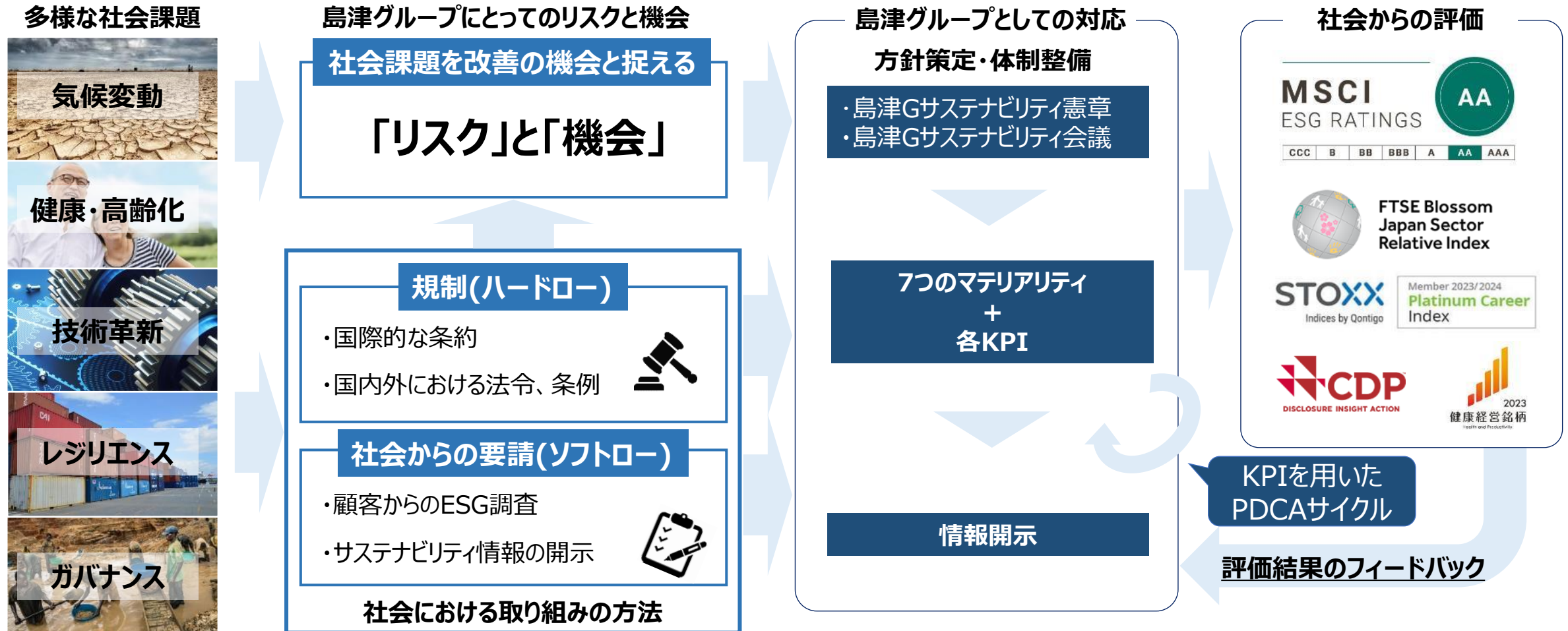
サステナビリティ経営の考え方

- 「事業を通じた社会課題の解決」と「社会の一員としての責任ある活動」の両輪で
①地球環境・社会 ②島津グループ ③従業員 のサステナビリティの実現を目指す



1. 島津が目指すサステナビリティ経営 サステナビリティ経営のまとめ

- 多様な社会課題に対し、リスクと機会の視点でサステナビリティ経営を推進。KPIや社外評価の結果から、改善すべき課題を認識し、サステナビリティ活動の向上を目指す



1. 島津が目指すサステナビリティ経営 マテリアリティの選定

■ サステナビリティ経営の重要課題となるマテリアリティの選定プロセスは以下の通り



目指す姿の実現に関連する社会課題を抽出

- 社是・経営理念との関係性
- 当社の事業領域やバリューチェーンとの関連性

2つの評価軸からテーマを優先順位付け（ダブルマテリアリティ）

- 当社の活動が社会に与えるインパクト
- 当社の企業価値への影響

島津グループサステナビリティ会議および中期経営計画策定プロセスでマテリアリティとその取り組み内容を決定

1. 島津が目指すサステナビリティ経営
島津グループマテリアリティ(2024年度)

全59項目	事業貢献テーマ	基盤テーマ（経営、技術関連）
E：環境 11項目	 ①地球の健康【11項目】 (脱炭素, サークュラーエコノミー, 生物多様性, 公害防止)	
S：社会 36項目	 ②人の命と健康【12項目】 (メドテック, 医療, 製薬, 健康食品)	(従業員の健康と安全)
	 ③産業の発展と安心・安全な社会【3項目】 (新素材, 産業イノベーション)	(製品品質、安全)
	 ④科学技術の進歩・高度化【9項目】 (特許, R&D, 標準化)	
		⑤開発・製造能力の向上【8項目】 (IMS, DX, SCM, BCM)
		⑥人財の育成【4項目】 (エンゲージメント, 能力開発, DE&I)
G：ガバナンス 12項目		⑦ガバナンスの強化【12項目】 (グループマネジメント, リスクマネジメント・コンプライアンス, 人権, ITセキュリティ)

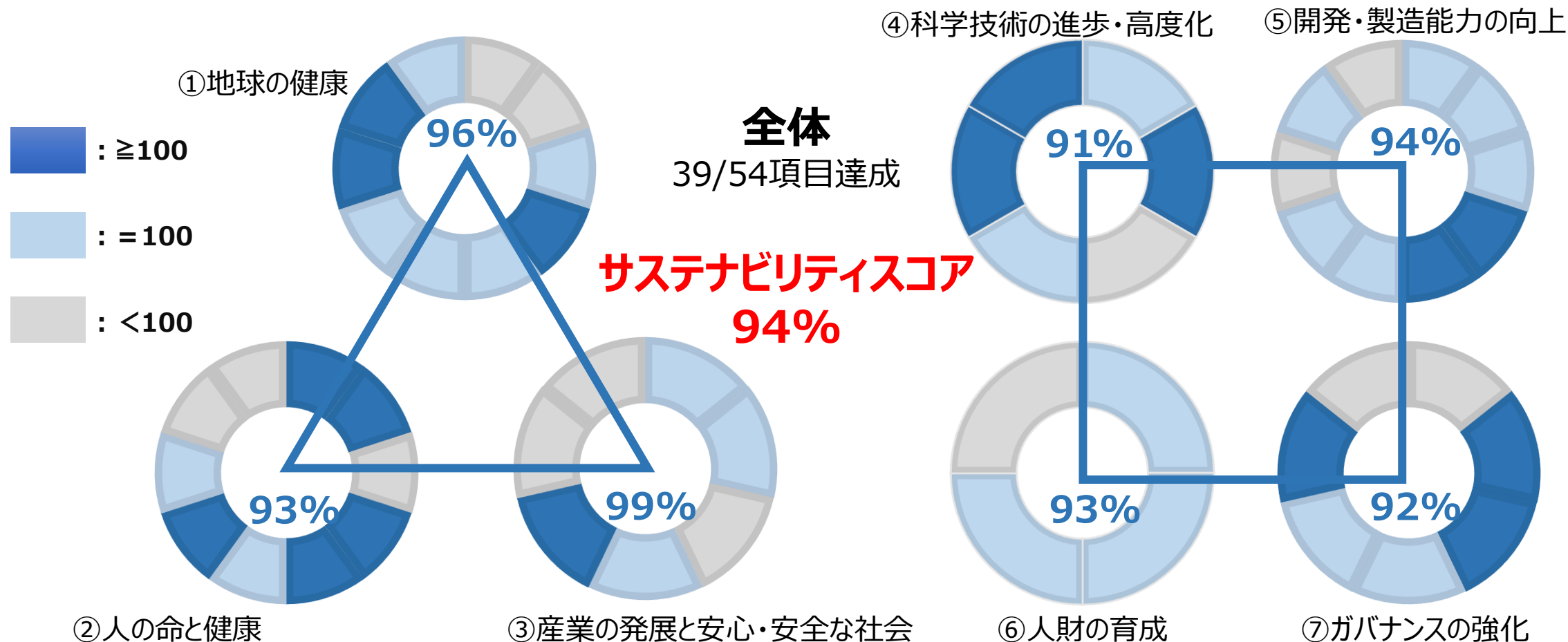
1. 島津が目指すサステナビリティ経営

マテリアリティにおける主な具体的なテーマ、KPI、2023年度結果

マテリアリティ	テーマ	関連：中期経営計画	2023年度項目(KPI目標)	2023年度結果
E ①地球の健康	事業貢献:グリーン領域	重点事業の強化	GX関連売上高の拡大(100以上)	122*
		環境経営の推進	当社製品の使用に伴うCO ₂ 削減(1.0万t-CO ₂)	1.04万t-CO ₂
			エコプロダクツPlusの売上高製品比率(21%)	21%
	事業活動での環境負荷低減	環境経営の推進	事業活動に伴うCO ₂ 排出量(1.2万t-CO ₂ 以下)	1.08万t-CO ₂
			電力の年間使用率の再エネ率(85%)	85%
S ②人の命と健康	事業貢献:ヘルスケア領域	重点事業・リカリングの強化 等	製薬分野の売上高(114)	110*
			メドテック事業の売上高(101)	91*
	グループ健康経営の推進	健康経営の推進	健康増進イベントの参加従業員数(目標6,000名)	6,332名
③産業の発展と安心・安全な社会	事業貢献：インダストリー領域	重点事業強化 TMP	TMPの売上高(99)	103*
④科学技術の 進歩・高度化	グローバル製造能力の強化	グローバル製造の拡大	海外製造子会社のサプライチェーン強靱化(現地調達率64%)	66%
⑤開発・製造能力の向上	科学技術の研鑽	国際標準化	新事業・新規製品戦略支援(IPランドスケープ活用)(2件)	47件
⑥人財の育成	グローバルリーダーの育成	人財戦略： 島津人の育成	ビジネスリーダー育成(700名)	817名
			高度専門人財育成(18名)	18名
	ダイバーシティ経営の推進		管理職における女性比率(連結11%)	連結11%
G ⑦ガバナンスの強化	グループガバナンスの強化	ガバナンスの強化	島津グループマネジメント基本規定の運用	周知100%
	SC全体でのリスクマネジメント		CSRセルフアセスメント実施率(80%)	96%

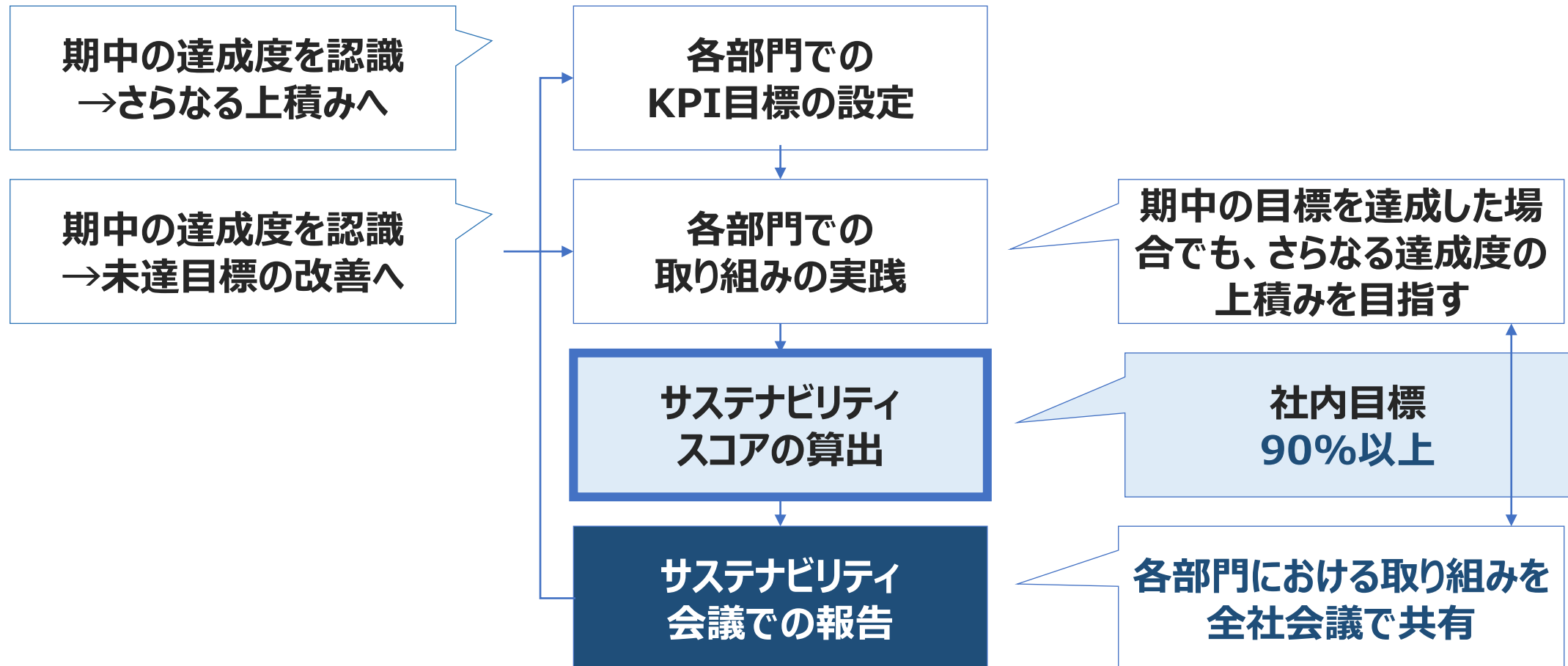
島津サステナビリティスコア 2023年度実績

- 各KPI達成度の平均値をもとに算出した独自の島津グループサステナビリティスコアで進捗を管理。90%以上達成を目標と、2023年度のサステナビリティスコアは 94%



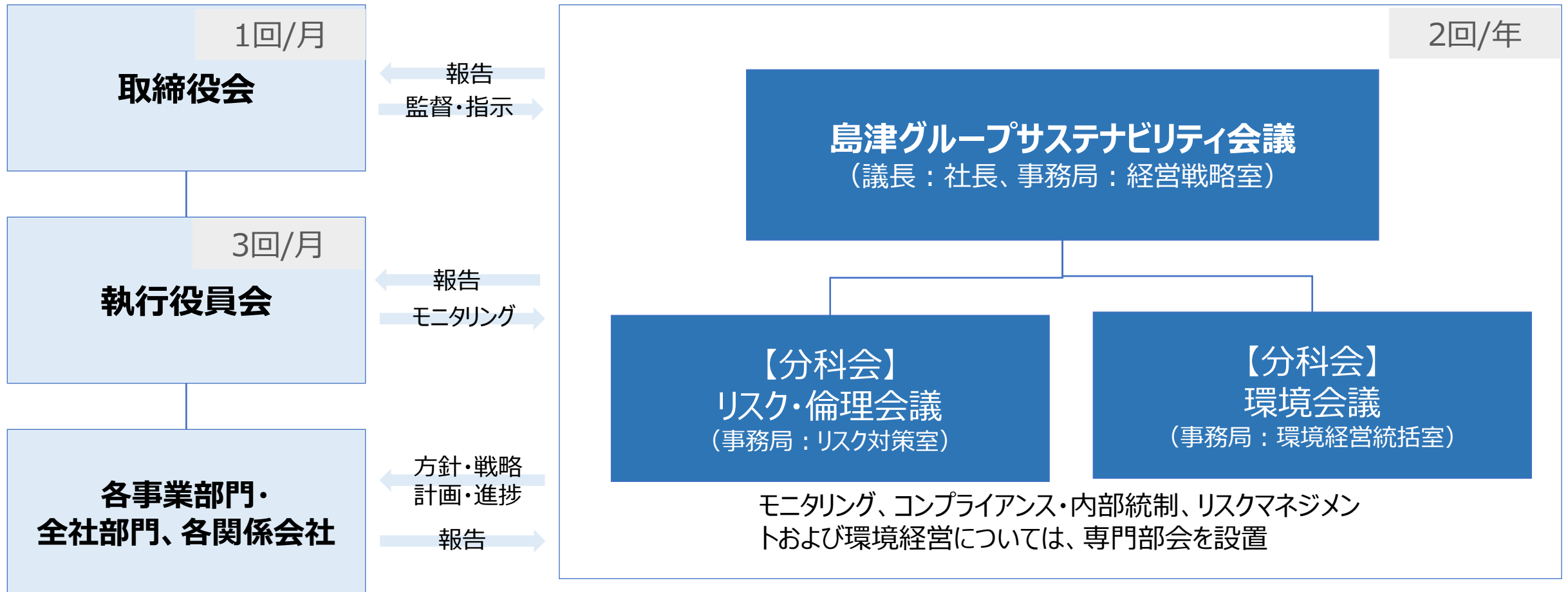
1. 島津が目指すサステナビリティ経営 KPI見直しの仕組み

■ 社会情勢の変化や課題の変化に鑑み、柔軟に毎年KPI目標を見直す



サステナビリティ経営の推進体制

■ 取締役会の重要な意思決定・監督の下、サステナビリティ経営の審議機関としてサステナビリティ会議を設置



1. 島津が目指すサステナビリティ経営 外部からの評価

主なインデックス組み入れ状況



[TERMS AND CONDITIONS](#)

2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

[TERMS AND CONDITIONS](#)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



Member 2023/2024
Platinum Career
Index



2024



Sompo Sustainability Index

社外からの評価・表彰・認定



THE USE BY SHIMADZU CORP. OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF SHIMADZU CORP. BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500



1. 島津が目指すサステナビリティ経営

- 1) サステナビリティ経営の全体像
- 2) マテリアリティ
- 3) 島津サステナビリティスコアとKPI見直しの仕組み
- 4) サステナビリティ経営の推進体制
- 5) 外部からの評価

2. 事業を通じた社会課題の解決 ～事業貢献テーマ～

- 1) 人の命と健康への貢献
- 2) 地球の健康への貢献
- 3) 科学技術の進歩・高度化

3. 社会の一員としての責任ある活動 ～経営基盤強化テーマ～

- 1) E：将来に向けた環境経営の取り組み
- 2) S：将来に向けた人的資本への強化、サプライチェーン強化への取り組み
- 3) G：ガバナンスの強化

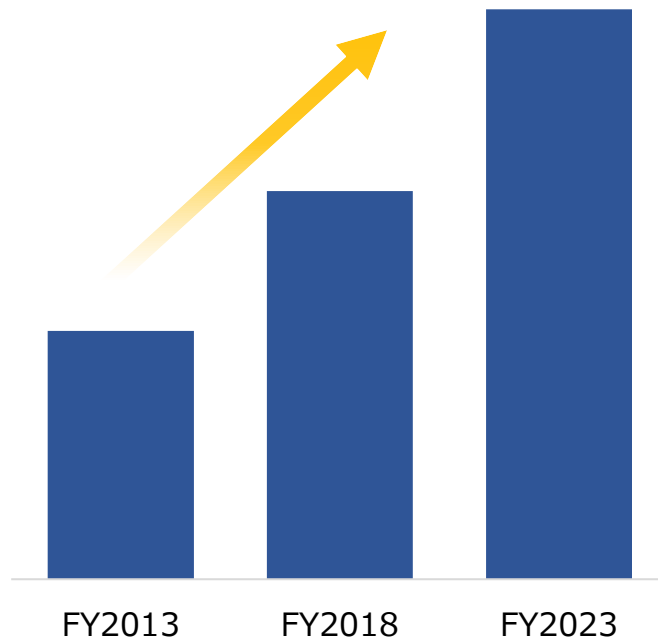
4. まとめ

2. 事業を通じた社会課題の解決

人の命と健康への貢献 ～製薬分野での事業貢献～

- 主力の計測セグメントの売上高の **約20%** が製薬市場向け
- FY2018-2023の5年間の製薬市場向け売上高のCAGRは **8%**

製薬市場向け売上高



当社の製薬市場における状況

- ・ 高成長を続ける**製薬市場**で、**市場の伸びを上回る事業拡大**
- ・ **日本、インド、中国などアジア**を中心に、液体クロマトグラフ(LC)が品質管理部門で**高シェアを確立**
- ・ セミ分取超臨界流体クロマトグラフ「Nexera UC Prep」をドアオープナーに、**北米メガファーマを開拓中**。北米現地の製薬ニーズを現地で解決するために、R&Dセンターを2024年4月開設

人の命と健康への貢献 ～新生児マススクリーニングへの対応～



■「稀少疾患」の発症リスクを検査し、早期発見・治療に繋げる



幾つかの病気は、生後すぐに
発見し治療を始めると症状の出現
・進行を予防できる

疾患の早期発見・治療に繋げる
ために**新生児マススクリーニング**
を実施

代謝異常症



液体クロマトグラフ質量分析計による
タンデムマス・スクリーニング

遺伝性代謝疾患

酵素の体内生成が不十分なために発症
先進国では全新生児の検査を実施

20
種類

- ・甲状腺ホルモンの欠乏症
- ・副腎皮質ホルモンの欠乏症
- ・糖の代謝異常症
- ・アミノ酸の代謝異常症 5 疾患
- ・有機酸の代謝異常症 7 疾患
- ・脂肪酸の代謝異常症 5 疾患

都道府県・政令指定都市において実施

免疫不全症・脊髄性筋萎縮症

令和 5 年度より国において調査研究
（こども家庭科学研究）を実施
令和 5 年度補正予算で実証事業実施

PCR試薬キット
「TKSneoFinder」※



※本製品は研究用です。医薬品医療機器等法に基
づく承認・認証等を受けておりません。

鎌状赤血球症

・アフリカ・地中海沿岸・中近東
インド北部で多い疾患

血液検査用試薬「NeoSickle」

受託検査



代謝異常症、SCID/SMA※のスクリーニングの受託検査を実施

※ SCID（重症複合免疫不全症）
SMA（脊髄性筋萎縮症）

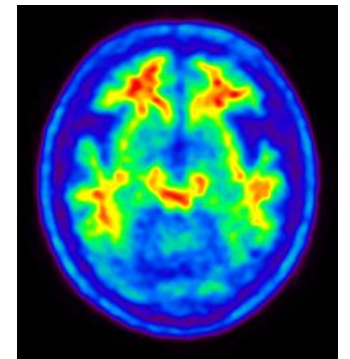
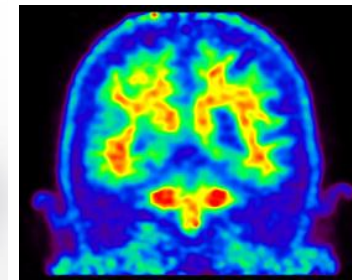
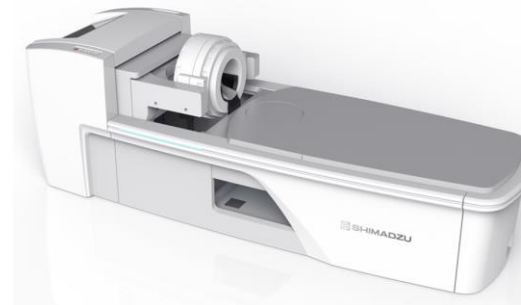
2. 事業を通じた社会課題の解決

人の命と健康への貢献 ～アルツハイマー病への取り組み～

■ 認知症の早期発見から予後まで一貫した新たなソリューションの提供を目指す



血液検査による脳アミロイドβ蓄積の推定

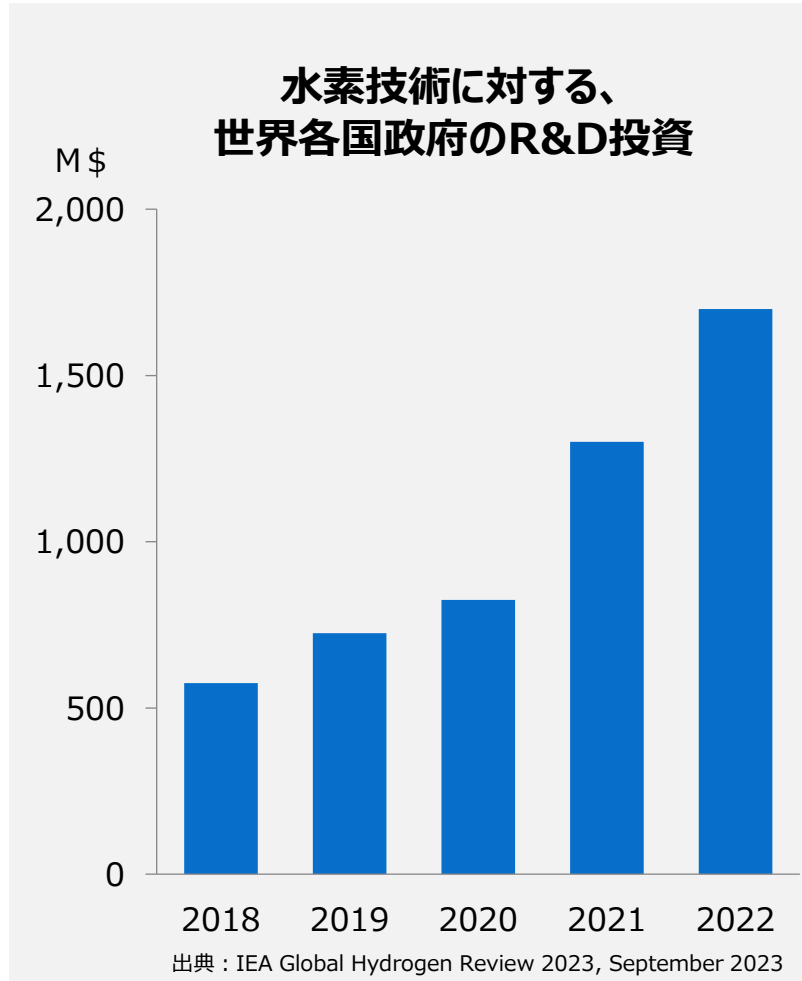


PETによる脳内のアミロイドβ蓄積の画像化

2024年5月に頭部と乳房検査用TOF-PET装置「BresTome」が米FDA認証を取得。今後日本に加え、北米市場での拡販を狙う

2. 事業を通じた社会課題の解決 地球の健康への貢献 ～水素エネルギー研究に向けた取り組み～

■ 水素ビジネスをトータルにサポートできる体制を構築





2. 事業を通じた社会課題の解決

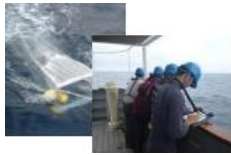
地球の健康への貢献 ～マイクロプラスチックの海洋流出対策への貢献～

- マイクロプラスチックは生物への影響や有害化学物質の運び屋になり海洋環境への影響を懸念。科学的知見の集積とイノベーションの分野で支援を実施

マイクロプラスチック問題への対策

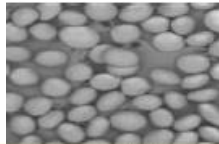
科学的知見の集積

- プラスチックごみのモニタリング
- 海洋流出量推計
- 生物生態系影響の検討等



イノベーション

生分解性プラスチックの展開

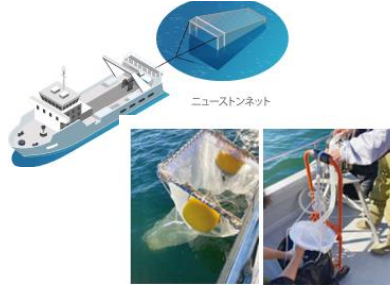


関係者の自主的な取組

自治体の取り組み、国民参加によるごみ拾いなど



サンプリング



前処理

世界初の環境水中マイクロプラスチックの抽出/回収工程を自動化

➔ 国際標準化へ

マイクロプラスチック自動前処理装置 MAP-100



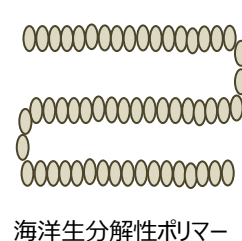
観察・分析・計測



開発中の素材の生分解メカニズムの解明

開発中の素材はどのように生分解するか？

精密質量分析を用いた分解生成物の相対定量技術



1量体 ○
2量体 ○○
3量体 ○○○
4量体 ○○○○
⋮
n量体 ○○○○○○

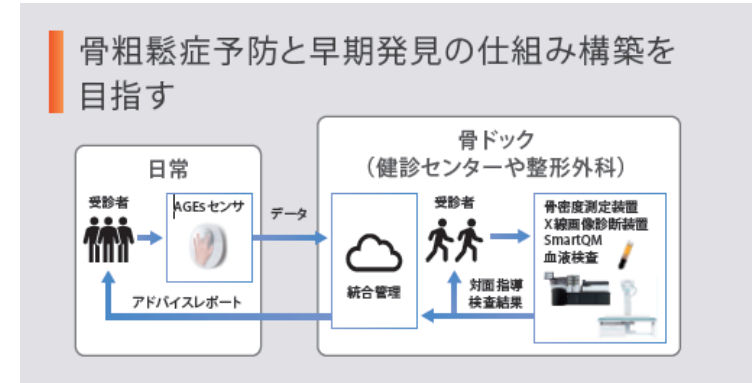


2. 事業を通じた社会課題の解決 「幸せな健康長寿の実現」へ向けて

■ 積極的な共創により、革新的な技術・製品の開発や新たなサービスの社会実装に取り組む

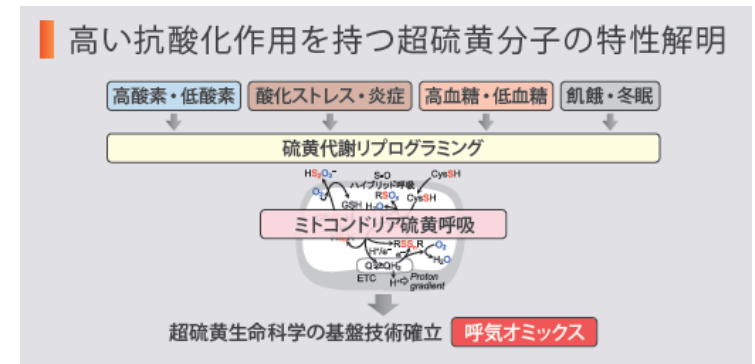
1) 慈恵大学

- ◆ 2021年12月、慈恵大学と臨床分野における最先端技術の研究開発に向けて5か年の包括連携協定を締結し、「骨の健康」を対象とした臨床ニーズの探索、共同研究の促進、人材育成を進めている



2) 島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所

- ◆ 2024年3月、東北大学と「島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所」を設置。超硫黄分子の代謝メカニズムを解明することで、新たな診断・予防・治療法の確立や機能性食品の開発への応用を目指す
 - ✓ 超硫黄分子：血液や臓器内に存在するアミノ酸などの有機化合物に 硫黄が結合した物質の総称。強力な抗酸化作用を持ち、老化や疾患の一因とされる活性酸素の働きをコントロールすると考えられている



3) シンガポールのチャンギ総合病院（以下CGH）



- ◆ 共同で島津-CGHクリノミクスセンターを設立
- ◆ 2023年2月から、液体クロマトグラフ質量分析計を用いて、治療可能な高血圧の一種である**原発性アルドステロン症**の臨床検査を開始



2. 事業を通じた社会課題の解決 カーボンニュートラルの実現に向けて

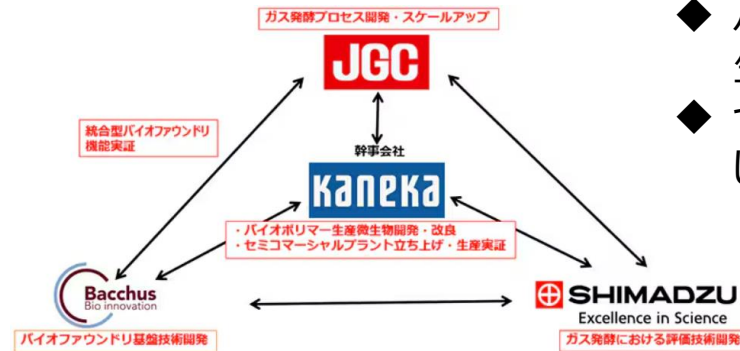
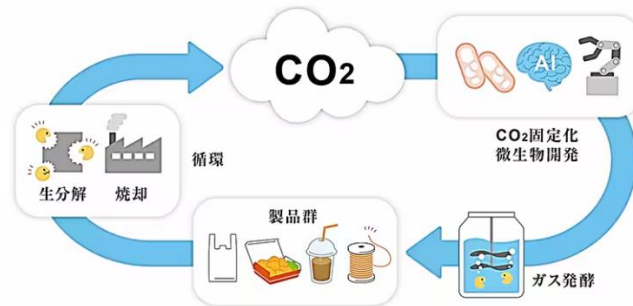
1) JST共創の場形成支援プログラム「ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環拠点」



- ◆ 2022年3月、京都府や京都大学発スタートアップのSymbiobe(株)等と参画
- ◆ 大気中の二酸化炭素や窒素を固定する海洋性光合成細菌等を活用して、温室効果ガスを削減しながら空気を資源化することにより、高分子材料や農業用肥料などのものづくりを目指す

2) CO₂からの微生物による直接ポリマー合成技術開発

循環型バイオものづくり技術



- ◆ バイオファウンドリ構築に不可欠な高速での生産性評価技術の開発に取り組む
- ◆ セミコマーシャルプラントにおけるガス発酵を計測し、安全・高効率な発酵の評価システムを開発

3) 石油大手Total Energies、フランスのポー大学、スペインのオビエド大学と共同研究成果

- ◆ バイオ燃料(SAF)の品質に影響するバイオ燃料特有の含酸素および含窒素成分を、選択的かつ効率的に検出できる、世界初の元素選択式ガスクロマトグラフ質量分析計を共同開発



元素選択式ガスクロマトグラフ質量分析計
「ELEM-SPOT (エLEMスポット)」

1. 島津が目指すサステナビリティ経営

- 1) サステナビリティ経営の全体像
- 2) マテリアリティ
- 3) 島津サステナビリティスコアとKPI見直しの仕組み
- 4) サステナビリティ経営の推進体制
- 5) 外部からの評価

2. 事業を通じた社会課題の解決 ～事業貢献テーマ～

- 1) 人の命と健康への貢献
- 2) 地球の健康への貢献
- 3) 科学技術の進歩・高度化

3. 社会の一員としての責任ある活動 ～経営基盤強化テーマ～

- 1) E：将来に向けた環境経営の取り組み
- 2) S：将来に向けた人的資本への強化、サプライチェーン強化への取り組み
- 3) G：ガバナンスの強化

4. まとめ

3. 社会の一員としての責任ある活動

E : 将来に向けた環境経営の取り組み

2023～2025年 島津グループの環境経営方針

1. 環境管理の確実な実施：環境法令順守の徹底

- ① 環境法令違反ゼロへの活動推進
- ② 廃棄物関連パフォーマンスの向上 国内開発・製造拠点におけるリサイクル率99.6%以上維持（2023年度以降）

2. 脱炭素社会の構築に向けて

- ① 島津G事業所およびサプライヤーからのCO₂排出量削減
島津Gからの排出量
4.9万t(2017年度)⇒1.3万t(2022年度)
⇒1.0万t(2025年度)
- ② TCFD関連情報開示の充実
- ③ GI課題解決への貢献
- ④ 製品のエコ化の推進

3. サーキュラーエコノミーへの移行に向けて

- ① サステナブル素材の製品への採用推進
0件（2022年度）⇒ 10件（2025年度）
- ② 製品長寿命化やリサイクルの推進
- ③ マイクロプラスチック評価技術開発と国際標準化(ISO)への提案

4. 生物多様性の保全に向けて

- 三条工場や南丹市などにおける森づくり活動の推進
三条工場「島津の森」
JHEP認証AAA更新（2025年度）
- TNFD関連情報の開示（2023年度より開始）

5. 外部評価の向上

- 日経SDGs
環境価値 S+の維持（2023年度以降）
- CDP評価
気候変動 A-の維持（2023年度以降）
水 B ⇒ A-（2025年度までに）
- SBT「1.5℃水準」の認定取得（2022年度）

グローバル体制強化：島津グループ全体における環境経営の推進

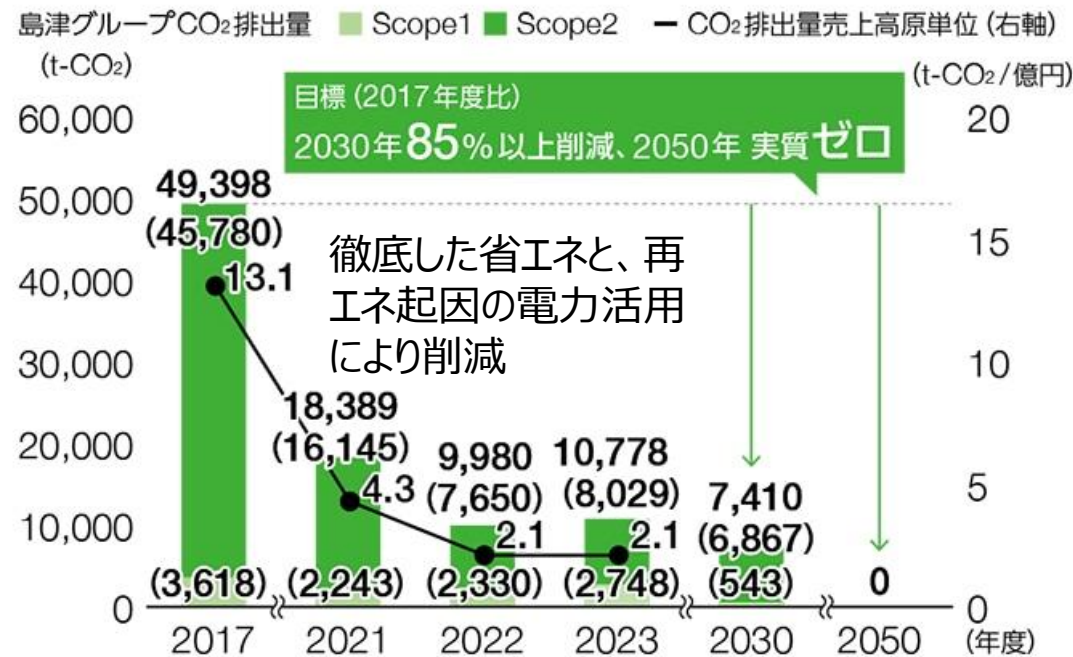


3. 社会の一員としての責任ある活動

E: 将来に向けた環境経営の取り組み ～CO₂削減～

- 2050年に当社グループの事業活動で排出するCO₂排出量を実質ゼロ。中間目標は2017年度比で2030年度85%以上、2040年度90%以上削減
- 当社グループが販売した製品の使用時におけるCO₂排出量を、2020年度比で2030年度30%以上削減

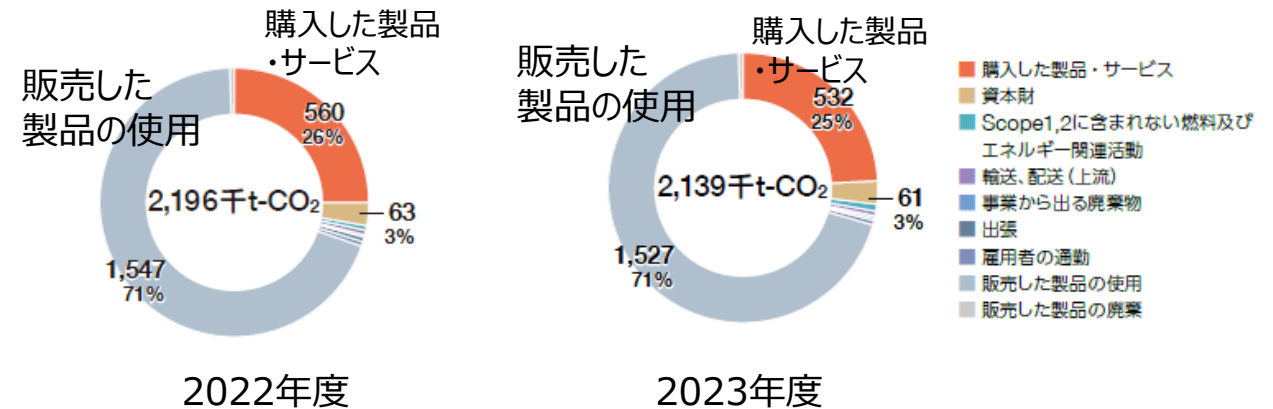
エネルギー起因CO₂排出量 (国内外島津グループ) (スコープ1,2)



2023年度は2017年度比78%減

スコープ3

2023年度は2022年度比2.6%減



気候変動関連で参画している主なイニシアティブ



TCFDへの賛同



SBT認定
(1.5℃水準)



RE100への加盟

E : 将来に向けた環境経営の取り組み ～TCFDへの対応～

気候変動シナリオに基づく当社への影響

- 様々な産業分野に製品・サービスを提供しているため、特定産業の規模縮小リスクが財務に甚大な影響を及ぼす可能性小
- 気候変動の機会を適切に捉え持続的成長を実現し、気候変動に対し強靱な状態を維持

脱炭素社会に向けた移行計画

<気候変動の緩和>

- 1.5℃目標に向けて事業活動を通じて取り組む
- CO₂排出量削減目標の設定と推進
- 気候変動ガバナンスの下で監視・監督
(定期的な見直しと更新)

<機会の獲得と最大化>

- お客様の事業における脱炭素の取り組みに貢献する製品を戦略的に開発・供給し、持続的な成長につなげる
- 製品需要の変化に応えるべく、開発基盤や供給体制を強化

当社グループの事業分野別取り組み方針・計画 (詳細は統合報告書2024を参照)

事業分野	当社グループの取り組み方針・計画など	
グリーン (GX)	バイオ ものづくり	バイオ燃料分野での品質評価法の確立・標準化 生分解性プラスチックの評価法の確立・標準化や関連する分析計測ソリューションなどを提供
	エネルギー	水素の製造過程や微細藻類によるオイル生成における品質管理分析で各種クロマトグラフを提供 バイオエタノール需要の拡大に対し、品質管理のためにガスクロマトグラフや元素分析装置を提供
	環境・規制	CO ₂ 吸収コンクリートの開発・吸収量の評価にTOC固体試料測定システムを提供 CO ₂ 吸着剤の研究開発に表面解析技術や粉体評価技術を提供 CO ₂ から生成されるメタノールなどの評価にガスクロマトグラフを提供
マテリアル	次世代 モビリティ・ マテリアル	全固体電池開発に対して、研究開発や品質管理にX線を用いた評価技術およびガスクロマトグラフを用いた発生ガス分析などで貢献 素材の高強度化・軽量化に対し、材料試験機や表面解析技術で支援
インダストリー	半導体	半導体やフラットパネルディスプレイ・スマートデバイスのスクリーンフィルム製造に不可欠なターボ分子ポンプの開発や生産体制を整え、世界ナンバーワンのシェアを確立
	産業機械	風力発電ブレード用のガラス繊維巻取機の開発、生分解性樹脂に対応した液送ポンプの高効率製品の投入を推進

3. 社会の一員としての責任ある活動

E：将来に向けた環境経営の取り組み ～TNFDへの対応～

事業活動において財務的な影響度が高いと考えられるリスク

リスクカテゴリー	自然関連リスク
物理的 (急性・慢性)	事業拠点における洪水等の災害発生によるコストの発生・収益の減少
	サプライヤーの拠点における洪水等の災害発生による原材料調達コストの増大
	水資源の不足に伴う事業拠点での操業中断・移転によるコストの発生、収益の減少
移行（政策）	水利用等に対する法規制の強化による操業中断・移転に伴うコストの発生、収益の減少
	環境への有害性の高い物質等の化学物質使用に対する規制強化への対応コストの増大
	プラスチックの使用に対する規制強化への対応コストの発生
移行（市場）	サプライチェーンにおける融資要件の厳格化に伴う原材料調達コストの増大
移行（責任）	汚染事故による罰金支払い、対応処置コストの発生
移行（評判）	水の利用や水質汚染等による地域における評判悪化に伴う対応コストの発生

当社での主な対応

- 工場緑地帯拡張による、水害リスクの軽減
- サプライヤーに対するエンゲージメント活動
- 製品の環境負荷低減の取り組み推進
- 有害性の高い化学物質の代替化
- 工場排水自主管理基準の設定
- 定期的な水質測定

事業活動において財務的な影響度が高いと考えられる機会

機会カテゴリー	自然関連機会
持続可能性パフォーマンスの機会のカテゴリー (生態系の保護、復元、再生)	生態系の保護・復元・再生により当社およびサプライヤーの拠点付近における森林・河川での風水害の軽減機能回復による災害対応コストの削減
	生態系の保護・復元・再生により水資源の量や質の回復による水資源調達コストの安定化・削減
事業パフォーマンス (製品・サービス)	規制対応に向けた環境モニタリング装置やサンプリング装置の需要増大による収益の増大
	環境負荷の低い製品に対する需要増大による収益の増大

- 新規制が生じた場合、分析機器の需要が拡大
↓
新たな計測方法の構築等を目指す

(詳細は統合報告書2024を参照)



3. 社会の一員としての責任ある活動

S：将来に向けた人財育成・人財獲得戦略

島津グループの持続的な成長と従業員のエンゲージメント向上の実現

人財獲得

国や地域を問わない
人財の獲得

人財育成

グローバルで事業を牽引する人財の発掘と育成
8階層×多様な研修プログラム(必須・選択・選抜等)



人財マネジメント

多様なスキルを
最大限引き出す
人財マネジメント
体制の構築

グループ共通の人財マネジメント基盤

グローバル人財データベース

人事・人財マネジメントシステム

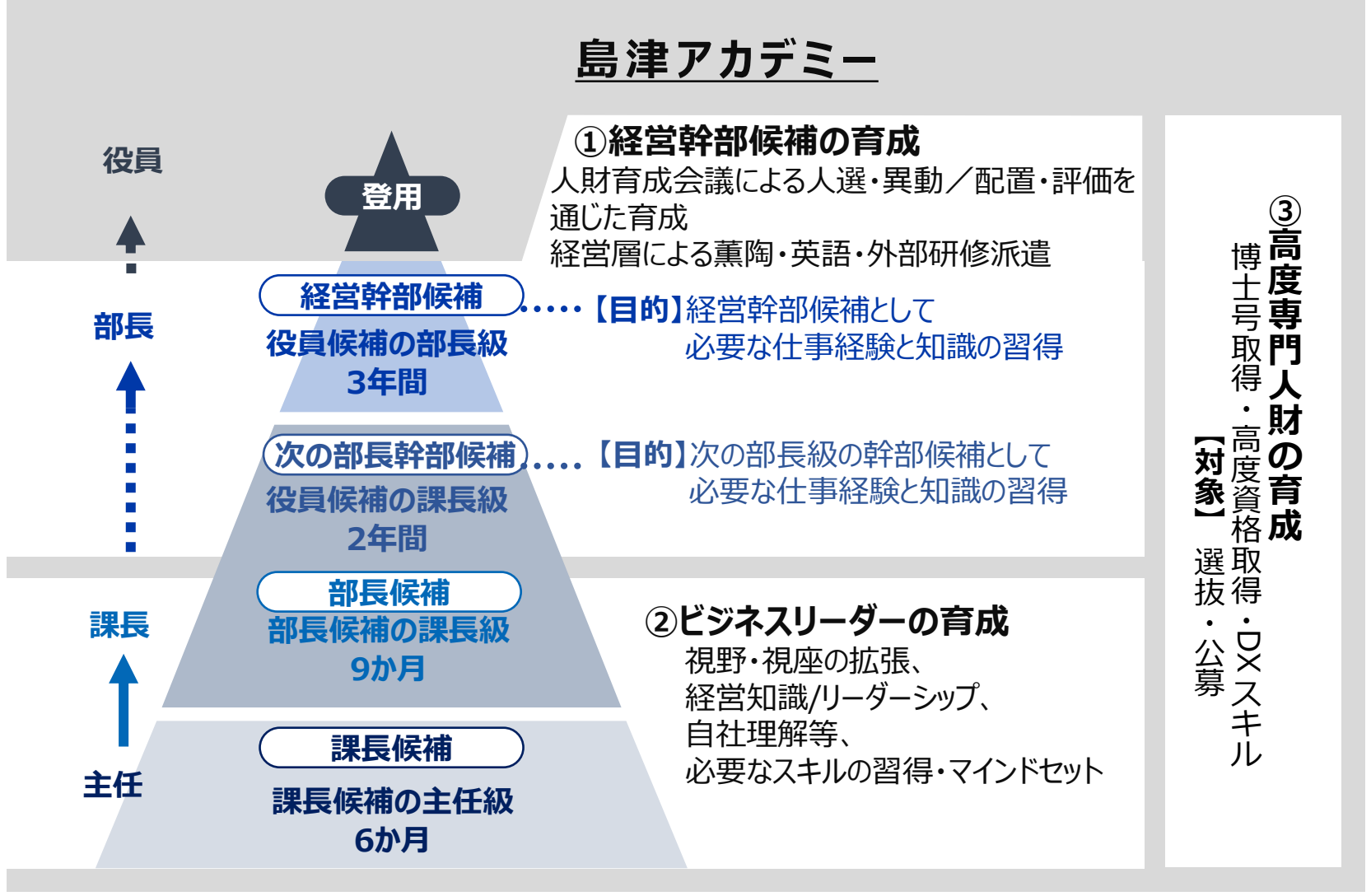
グループ人事ポリシー



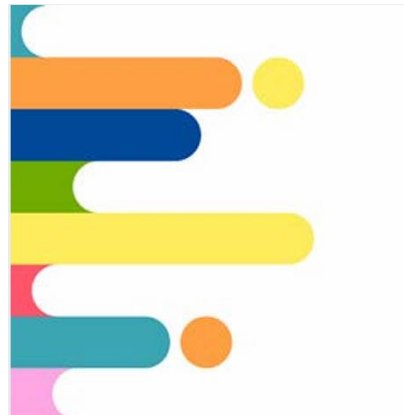
3. 社会の一員としての責任ある活動

S : 将来に向けた人財育成 ～研修事例～

■ 事業戦略の実現、経営基盤強化を目的に、島津アカデミーを通じて人財育成を推進する



S : ダイバーシティ経営の推進



Embrace Differences, Include One and All

違いを認め、受け入れよう

島津グループには、様々な属性、視点、価値観、経験、専門性をもつ仲間がいます。私たちは社員の多様性を歓迎します。その多様性を最大限に活かすことで、すべてのステークホルダーとともにイノベーションを創造し、社会課題を解決し続けることを目指します。そのために、DE&I 推進を通して一人ひとりが社会や会社への貢献を感じ、島津グループの一員として誇りを持てる環境を構築します。



女性リーダーの育成とキャリア支援

- ・管理職一步手前を対象としたShimadzu Women Next Career Design研修
- ・フレックス、テレワーク、時間単位年休や出産育児に関する幅広い支援制度など、女性が活躍できる環境を整備

女性管理職比率

2023年度 11.1% → 2030年度目標 15%以上

女性育休取得率*

6年連続 100%

女性の育休からの復帰率*

3年連続 100%

男性育休取得比率*

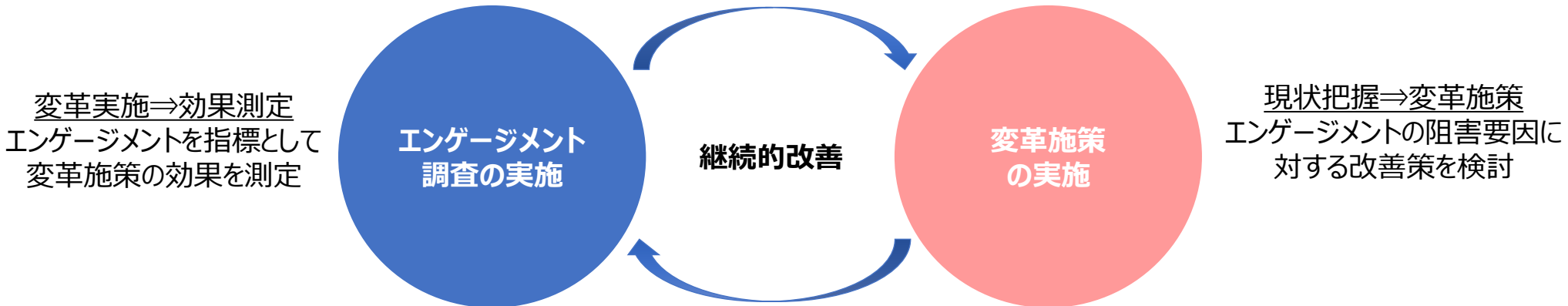
2020年度 22.7% → 2023年度 65.5%

*単体データ

S：従業員エンゲージメント

■ 島津グループの事業活動の持続と成長を目指し、多様なパートナーと社会課題解決に向けてイノベーションをリードするため「従業員エンゲージメント*」によるデータの見える化に取り組む（Qualtrics XMを活用）

*：会社・組織の方針や戦略に共感し、誇りをもって自発的に仕事に取り組んでいるような人々をエンゲージしている従業員と捉える



テーマ	肯定的な回答比率	スコア（平均値）
エンゲージメント	☐ 自社に対する愛着・誇り 70% ☐ 仕事を通じての達成感 63% ☐ 自発的な貢献意欲 57%	63% 日本の製造業平均（59%）よりも高いが、問題のない水準である65%には達していない

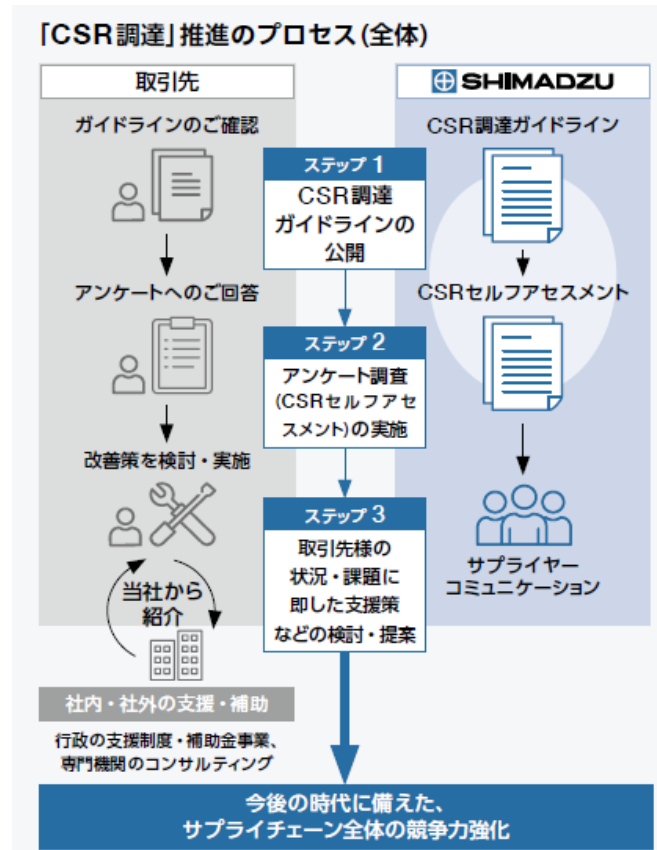
- ❑ 対象者は(株)島津製作所の役付執行役員、正規従業員、シニア・嘱託・臨時社員(出向者・休職者は除く)
- ❑ 回答率は93.3% (3,699名/3,964名)
- ❑ 国内グループ会社は2024年度下期から実施。海外グループ会社は2025年度下期から実施予定。
- ❑ 毎年1回のエンゲージメントサーベイにより定点観測を行い、各社・各部門の状況・課題を確認できるようにする。



S : サプライチェーン

取引の基本は公正な取引、取引先とのパートナーシップの構築、CSR調達の推進

CSR調達ガイドラインの説明とCSRセルフアセスメントのアンケート調査を実施



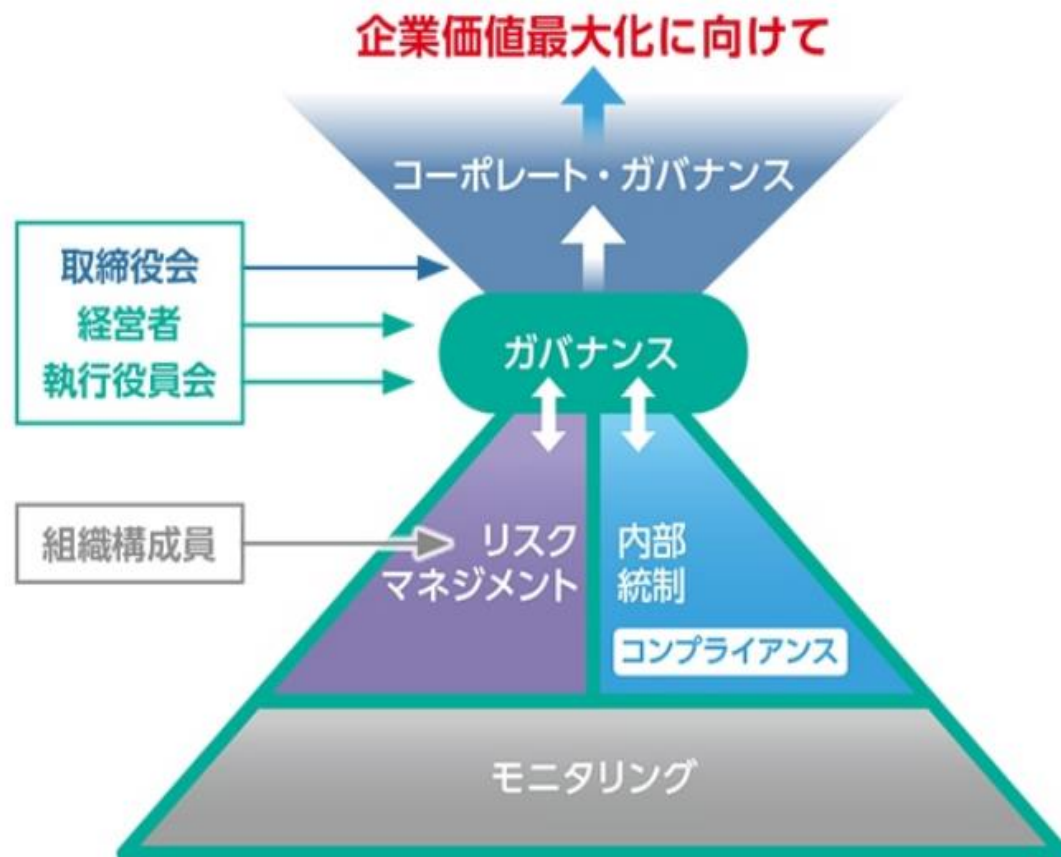
人権に対する取り組み

- 英国のModern Slavery Act 2015（現代版奴隷防止法）に関する声明を毎年公開
- 新規取引先には、人権侵害に関する対応の条項を盛り込んだ取引基本契約書を締結
- 既存の取引先には、CSRセルフアセスメントのアンケート調査で下記主要テーマを中心に人権に対する取り組み状況を定期的に確認

テーマ
人権の尊重
児童労働・強制労働の排除
雇用と職業の差別撤廃
結社の自由と団体交渉権の承認
適正な労働条件の維持
腐敗防止・反社会的勢力の排除

G：グループガバナンス体制の強化

- 「コンプライアンスは全てに優先する」を基本に、モニタリング、リスクマネジメント、内部統制を統合し、グループガバナンスを強化

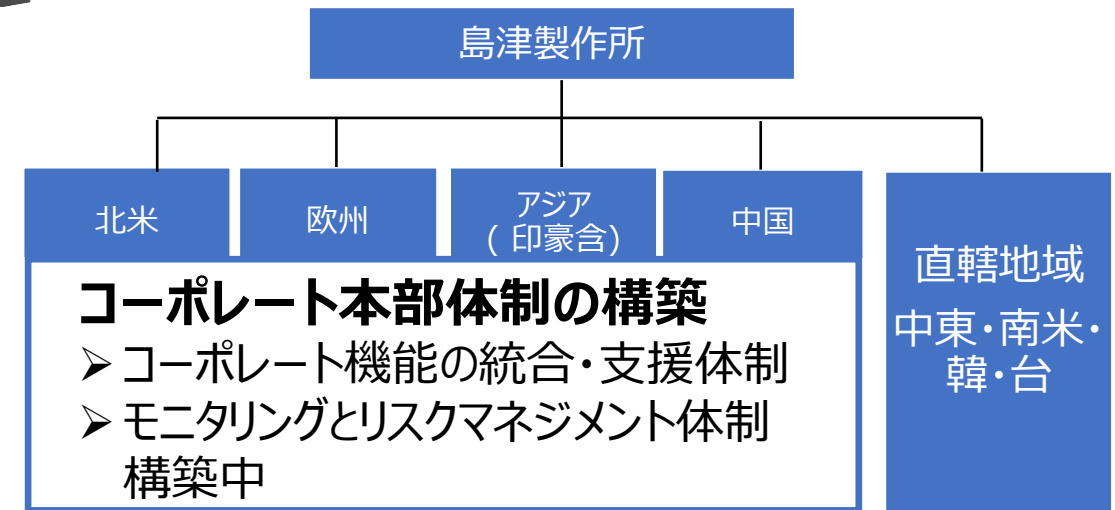


ルールの改定と整備 (改定・新設)

コーポレート機能に関する基本規定・運用規則をグループ会社に展開



体制の整備 (本社・各グループ会社)



人財育成・教育 (チーム学習等)



3. 社会の一員としての責任ある活動

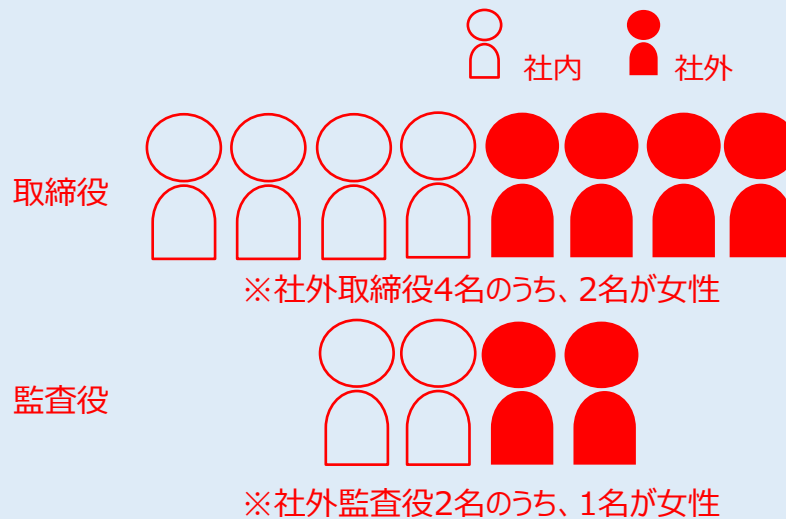
G：コーポレートガバナンスの強化 ～取締役会～

体制

- 多様性のある構成
- 経営の透明性と客観性を確保

取締役会の構成

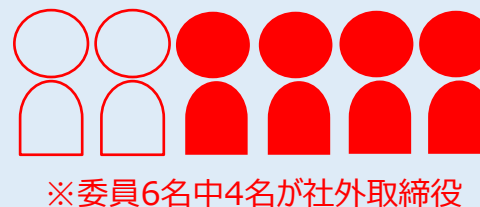
**1/2が
社外役員**



指名・報酬委員会

委員長は社外取締役

2/3が社外役員



実効性評価の結果*

- **取締役会の構成：**
12名の規模と社外役員が半数を占める構成は肯定的
- **取締役会の運営：**
審議の時間配分や会議資料は一定の改善がなされているが、ページ数の絞り込みやサマリーの質向上など更なる改善の余地がある
- **取締役会の役割と責務：**
取締役会の役割と責務は適切に果たされている
- **取締役の自己評価：**
取締役は基本理念を理解し、多様なバックグラウンドを生かした活発な議論を行っており、実効性がある
- **取締役・監査役への支援・連携：**
社外取締役と監査役間の情報共有、認識の共有は適切に行われている。社外役員と会計監査人・内部監査部門との意見交換の機会は確保されているが、情報共有は不足している
- **株主・投資家との対話：**
会社と株主や機関投資家の対話に関する情報提供に課題

*2024年3月期に行った、2023年度3月期に対する実効性評価

1. 島津が目指すサステナビリティ経営

- 1) サステナビリティ経営の全体像
- 2) マテリアリティ
- 3) 島津サステナビリティスコアとKPI見直しの仕組み
- 4) サステナビリティ経営の推進体制
- 5) 外部からの評価

2. 事業を通じた社会課題の解決 ～事業貢献テーマ～

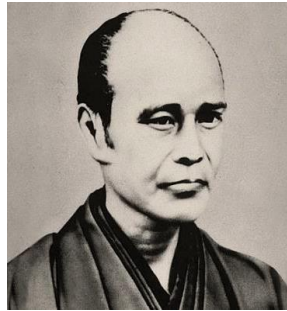
- 1) 人の命と健康への貢献
- 2) 地球の健康への貢献
- 3) 科学技術の進歩・高度化

3. 社会の一員としての責任ある活動 ～経営基盤強化テーマ～

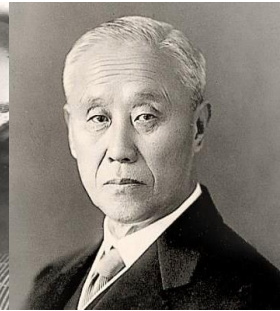
- 1) E：将来に向けた環境経営の取り組み
- 2) S：将来に向けた人的資本への強化、サプライチェーン強化への取り組み
- 3) G：ガバナンスの強化

4. まとめ

4. まとめ まとめ



初代 島津源蔵



二代 島津源蔵

常にステークホルダーの要望に耳を傾け続け、
2025年3月に初代島津源蔵が創業してから**150年**を迎えます
今後も、

《社是》科学技術で社会に貢献する

《経営理念》
「人と地球の健康」への願いを実現する

島津グループサステナビリティ憲章

に基づき、世界のパートナーと共にプラネタリーヘルスを追求し、存在意義の向上に努めます。

<ご紹介> 統合報告書2024



2023版に対するご意見を受けて2024版を作成しました。ウェブサイトにて統合報告書2024 PDF版を掲載しています。是非、ご一読ください。



PHOTO0000



島津 統合報告書 2024

2024版	内容 全142頁
イントロダクション	「編集方針・目次」「事業概要、財務・非財務ハイライト」
トップメッセージ	「トップメッセージ」
価値共感×共創ストーリー	「島津の価値観」「サステナビリティ経営とマテリアリティ」「価値創造の歴史」「培ってきた強み」「価値共感×共創プロセス」「島津の経営資源」「共感×共創のビジネスモデル」
中期経営計画	「過去3期の中期経営計画の振り返り」「中期経営計画（5つの事業戦略の進捗、営業本部の創設、営業担当のメッセージ）」「5つの事業戦略を支える事業部門」「7つの経営基盤強化の進捗」
ESG基盤	「環境経営の推進」「健康経営」「健康経営アライアンス」「顧客満足(CS)」「サプライチェーンマネジメント」「コーポレート・ガバナンス」
財務・企業情報	「11年間の主要財務データ / 6年間の主要非財務データ」「会社概要／株式情報」「グループ会社情報」



ご清聴 ありがとうございました

本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp